

仕入れに影響 新型コロナ

新型コロナウイルス感染拡大で、これまで経済成長を支えてきたサプライチェーン（調達・供給網）が揺らいている。特定の国や企業に頼っていた素材や部材の仕入れが滞り、製造ができないなどの影響が世界中で出ている。自国内や複数国での生産に力を入れるといったサプライチェーン見直しへの関心が高まっている。

県内も例外ではない。当社が県内企業を対象に行った調査では、感染拡大で「仕入れの遅滞・停止」が起きている企業の割合は3月で47%、5月で26%、7月で14%だった。最大の仕入れ先である中国での稼働が上向き、国内でも経済活動が再開されたことで改善傾向にあるが、製造業や建設、卸小売りなどでは依然影響が残る。

コロナの収束が見通せない中、体制の見直しに踏み切る企業は少なくない。7月の調査では、コロナ禍で「仕入れや生産の体制を見直した・見直す」企業は4割強を占めた。一時的に生産量を減らして乗り切った企業が多いが、仕入れ内容や仕入れ先、仕入れ国の変更、自社生産や国内調達への切り替えを図る企業もみられた。

こうした構造的変化は、新規開拓をめざす企業にとってはチャンスでもある。県は、発注ニーズのある企業と県内の中小製造業者とをマッチングし、取引拡大を支援する予定だ。県内企業の発展につながることを期待したい。

（コンサルティング事業部 調査グループ 主任研究員 谷ノ上 千賀子）

朝日新聞「三重のけいざい ひと息コラム」 2020年8月24日